

【小学校・中学校・義務教育学校用】  
令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	鳥栖市立麓小学校
1 前年度 評価結果の概要	○学力の向上については、新しい学力観について授業実践・研修会等で共通理解・共通実践を進め、児童の学び合いや伝え合いにおける伸びや活性化も見られるが、基礎学力の定着等、全体的な底上げが必要である。 ○心の教育については、今年度も地域の方との交流や栽培活動、集会等を通して、人権や共生、生命尊重等についての意識を高めるよう努めてきた。いじめ対応についても、未然防止や初期対応の大切さを職員全体で認識し、こまめに情報共有を図りながら組織的に対応することができたと考えが、SNS関連の事象が増えてくることが予想される。児童の安心・安全のため、今後もしっかりと取り組んでいきたい。コミュニティスクールに関しては、その意義が職員・保護者に浸透してきている。地域で生き、地域の未来を担う児童が、地域のよさ、地域の人のつながりやよさ・大切さを感ずられるよう充実させていきたい。 ○健康・体づくりについては、児童の委員会活動で外遊びや食の大切さ、感染症予防等に関する意識を高めることができた。健康・体づくりは、家庭の理解や協力も必要なので、親子で取り組めるような働き掛けについても取り組んでいきたい。 ○業務改善・教職員の働き方改革の推進については、子ども達との時間への余裕を持てるように、また、教職員が個々の時間を大切にできてそれが働き甲斐の充実につながるためにも必要である。組織対応を進め、前年度よりも時間短縮はできているが、人員不足等の問題もあり、実情として負担感、多忙感の解消は進んでいるとは言えない。 ○小中一貫教育の充実については、鳥栖西中学校区の三校合同の研修会や児童・生徒同士の交流等で、引き続き連携を深めている。教科「日本語」では、授業公開等で、教科「日本語」のよさも保護者や地域に浸透してきている。児童自身も、そのよさをより実感できるよう、授業実践を充実させていきたい。 ○特別支援教育の充実については、校内研修や研究授業を通して、引き続き教職員の特別支援教育に関する専門性の向上に努めてきた。また、日々の指導・支援についても、教職員相互の連携、面談を通しての保護者との情報共有等を図りながら進めてきた。

2 学校教育目標	「ふるさとを誇りに思い、やさしく・かしこく・たくましく生きる麓っ子の育成」
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	◎ 子どもの「心」を育む ○ 豊かな体験活動の充実 ○ 小中一貫教育・幼保小連携の推進	◎ 子どもの「学び」を育む ○ 教科「日本語」の充実 ○ 食育指導の充実	◎ 子どもの「体」を育む ○ 学力向上（理数教育） ○ コミュニティ・スクール定着・推進	○ 体力向上の取組 ○ GIGAスクールの更なる推進	○ 特別支援教育・人権教育の推進
------------	---	--	--	-------------------------------	------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が学ぶことの楽しさに出会える算数科や理科の授業作りの実践	○理科や算数の授業で、「自ら問題を見出したり、解決したりした。」と実感できた児童の割合が80%以上	・学びたくなるように問題の提示の工夫をする。 ・学習のふり返りの視点を示したり、ふり返りを次の授業の導入に活用したりすることで、これまでの学びや経験を学習に生かそうとする意欲や態度を育成する。	B	・年間4回の全研、3回の部研を通して、理科や算数の問題の提示の工夫を検討することができた。 ・学習内容に応じて、振り返りの視点を具体的に示すことで、児童は、授業の最後にノートに書いたり発表したりできるようになった。	B	・「自ら問題を見出したり、解決したりした。」と実感できた児童が、算数で76％、理科で70％だった。目標の80％を達成することはできなかったが、どの学年においても、興味をもって、課題に向かうことができるようになってきた。	B	・児童が自ら学ぶ姿勢がよいと思う。目標達成とはなっていないが、高い水準だと思う。 ・目標の80％越えはならなかったが、7割以上が実感できているのは評価できる。 ・意欲や興味をもって取り組んでいる子どもたちもよく見られる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権・同和教育に関する学習等を通して、子どもの豊かな心が育てられていると、アンケートにて肯定的な解答をした保護者80%以上	・人権学習、人権集会を児童の発達段階に応じた適切な意識の向上を図る。 ・授業参観にて「ふれあい道徳」として全通常学級で授業公開を行い、家庭と連携を図って豊かな心を身に付ける。	B	・人権集会では、人権の意味、そして人権を守ること・守られることの大切さを確認した。差別や暴力によって、人権が傷つけられること、そしてどんな差別が身の回りにあるのかを伝える機会をもつことができた。その後、それぞれの学級に応じて話をしてもらって、人権意識を高めることができた。 ・保護者が参観できる道徳の授業を、各学級において実施することで、授業を通して学校で指導していることを理解してもらうことに努めている。	B	・例年通りに人権学習や人権集会の実施で子どもたちの人権意識を高めることができた一方で、人権・同和担当が代わったばかりで分からない点も多かった中で、来年度は校内での研修等を充実させたい。 ・どの学年も授業参観において「ふれあい道徳」を実施することができたが、保護者参加型の授業の実施率が高くなかったため、来年度はもっと保護者参加型の授業の実施を勧めたい。	A	・「ふれあい道徳」は、保護者と道徳観を共有するためにあるのではないか。授業参観で道徳をするのであれば、家族参加型などの形で実施して、保護者と道徳観を共有することも大切だと思う。 ・保護者に興味を持たせる授業、保護者に響く内容だと、その後に家庭での子どもとの時間も作れるのではないか。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取り組み、事業対処等)について組織的対応ができていると解答した教師90%以上	・いじめ早期発見のため「なかよしアンケート」を月に一度実施する。 ・年度の始めにいじめや差別的事象への対応について職員研修を行い、週1度生徒指導協議会で支援の必要な児童について共有する。	A	・定期的に生徒指導連絡会を実施し、全職員で対応について共通理解したり、いじめ対応についての話し合いや研修を行った。いじめの早期発見、早期対応に努めている。 ・学年間あるいは管理職への報告・相談しやすい雰囲気ができている。	A	・全職員でいじめの早期発見、早期対応に努めたことで、重大事案の発生を防ぐことができた。 ・学年間や管理職への報告・相談はできているため、生徒指導担当との連携をさらに密にしていきたい。	A	・PTAの命についての講演会がよかった。親同士のつながりや態度で子どもの人間関係も影響を受ける。保護者と子どもが一緒に参加し話を聞くことができたのもよかった。 ・SNS関連は、保護者の責任であることと言っていることが大切だと思う。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・授業中の児童の言動や児童の作品等に肯定的な評価をしたコメントをする。 ・将来のことや中学生生活を知るために、キャリア教育や中学生との交流を年間を通して行う。 ・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施	B	・授業中の児童の発言や児童の作品に、優れているところや努力した点について肯定的に評価している。 ・キャリア教育の一環として、様々な職業について学んだり、中学校の説明会の折に中学生が学校生活を紹介したり、部活動見学の案内をして交流を深めている。 ・児童の資質・能力を育む研修についてはまだ、未実施であり、今後取り組んでいく。	A	・授業中の声かけや児童の作品への肯定的なコメントを通して、優れている点や努力した点を評価している。児童同士でもよさを認め合う活動を取り入れることで、相互に評価し、肯定的な関係を築くことができた。 ・「ようこそ先輩」として、中学生を招いて、先輩の話を聞くことで「将来の夢を実感できた。」と考え、将来について肯定的に捉えている。 ・体験活動や地域の方とのふれあい活動を通して、地域に貢献したいと考える児童も増え、将来の夢や目標としている。	A	・児童の自己肯定感の向上は発育により影響を与えようと思う。 ・子どもたちが他の人に感謝の意を伝えることはよくできていると思う。 ・将来の夢については、PTA広報誌などで目にした。卒業式で壇上で夢や希望についていうのも見たことがありいいと思う。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒70%以上	・学級で全員一緒に遊ぶ日を設定したり(週1回程度)、昼休みや業間休みに外遊びの声かけを行ったりする。また、「麓っ子体力アッププロジェクト」に取り組み、楽しみながら体力の増進を目指す。 ・給食時の放送やリーフレットを活用し、食事に対する関心を高める。 ・交通安全教室を行った。校内外の危険箇所を知らせることで交通規則の遵守と児童の安全に関する意識を高める。 ・「麓っ子がんばり表」を活用し、継続的な指導を行う。	B	・朝の時間、業間休み、昼休みに外で遊ぶ児童が、暖冬の影響もあり、今年度も増加傾向にあり、50%以上が見込める。 ・給食時の食事に関する放送により、食事に関する関心が高まっている。 ・連絡会等で交通安全についての話が出た際に、指導が必要と判断し、交通安全についての話を、給食時の放送で行った。 ・「麓っ子がんばり表」により、自身の体力の向上を確認することができている。	A	・朝の時間、業間休み、昼休みに外で遊ぶ児童が前年度と比べ増加したが、6月後半から10月の前半まで気温が高くなり熱中症対策で外で遊ぶことができないことが多かった。 ・給食委員会の放送やリーフレットの配布等、給食に関する活動が増え、食事に関する関心が高まった。 ・日頃の各クラスの担任の先生方や放送してくださった先生方のおかげで大きな事故が起きなかった。	A	・朝から運動場いっぱいになって遊んでいる子どもたちを見てうれしくなる。外で遊ぶ習慣が身に付くようにしてほしい。 ・環境の変化で、夏は外での活動ができなかったことは仕方ないことかなと思う。真夏の外での活動は、農作業などもできなかった。熱中症対策等で児童の健康に気を遣いながら、外で遊ぶ児童が増えたことは先生方の熟慮の賜物だと思う。 ・夏場の運動をする環境の整備が必要。(市などの対応) ・外遊びだけでなく、登下校で歩いている分もいい運動になっていると思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定する。(毎週金曜日18:00を厳守) ・職場全体、職員個々人で時間を生み出す工夫や効率化を図り、月間時間外校内業務の45時間以内を目標にする。	B	・欠員による教職員数の不足や今年度は職員の入替わりが多く学年や組織での話し合いの時間がより多く必要だったこともあり課業日は増加傾向だが、昨年間様、夏季休業中に連続した休職を取得しやすかったこともあり、職員4～12月の時間外在校等時間の平均は約27.3時間で、昨年度より幾分削減した。	B	・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合は27%だった。 ・会議等の回数や時間の削減、資料のデジタル化等で職員個々の業務時間確保に努めてきた。また、余剰時間数の見直しと校時の変更等について次年度に向けて進めた。 ・職員の意識(仕事の効率化や優先順位の付け方等)に個人差があるので、全体的に意識を高めていく必要を感じる。	B	・先生が子どもたちを見る時間を増やすためにも、不要な業務を削減する働き方改革が必要と思われる。 ・職員室に入った際に書類の多さに驚く。電子化がさらに推進されればと思う。
●特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制の確立のための教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施(4月・7月・11月) ・ケース会議の開催、情報共有	A	・4月・5月・6月に市教委担当者を講師に迎え、特別支援学級担任研修会を実施した。8月には、全職員を対象に、発達障害児の理解と具体的な支援について、研修を行った。 ・担任や保護者の要望を受け、巡回相談やケース会議を開き、情報を共有した。	A	・校内研究では、授業の公開に向けて教材研究を行った。また、授業参観や授業研究会を通して、全職員の専門性を高めることができた。 ・新人も保護者向けの特別支援学級説明会を行った。また、新担任に就任する児童の保護者も含め、個人面談を行い、情報の共有を図った。	A	・特別支援学級の多様化に対応できていると思う。 ・特別な支援が必要な子どもたちが増加していると言われているが、保護者の理解や意識も以前と比べると高まってきていると思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・授業参観や学校だより、学年・学級通信等を通して、教科「日本語」の実践を保護者や地域に広める。 ・小中一貫教育担当者との定期的な情報交換をし、西中校区としての相互の授業参観を行い、共通の取り組みを推進する。	B	・保護者や地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率がまだ30%程度である。 ・鳥栖西中、旭小の小中一貫教育担当者との情報交換を積極的に図った。事情により8月に計画していた三校合同研修会が未だに開催できていない。	A	・保護者や地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率は18学級中、11学級で61%だった。 ・鳥栖西中、旭小の小中一貫教育担当者の三校合同研修会を主催した。教科「日本語」だけでなく、キャリア教育や生徒指導の連携に関するも新年度に向けた道筋を立てることができた。	A	・日本語の授業公開では、大人でも知らないようなことを知っているなど感動することも多かった。 ・日本語についてはよいと思うが、小中一貫をあまり感じない。 ・小中一貫教育の取組として、教師間交流による体験授業はどうか、移動が難しいならリモートという方法もある。中1ギャップの解消にも効果があるのではないか。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	○学力の向上については、どの学年においても、興味をもって課題に向かうことができるようになってきたが、「自ら問題を見出したり、解決したりした。」と実感できた児童は目標値には達しなかった。さらに高い水準を目指して取組を推進したい。 ○心の教育については、今年度も地域の方との交流や栽培活動、集会等を通して、人権や共生、生命尊重等についての意識を高めるよう努めてきた。PTAの命についての講演会もよかったとの声を多くいただいた。いじめ対応についても、未然防止や初期対応の大切さを職員全体で認識し、こまめに情報共有を図りながら組織的に対応できたと考えが、SNS関連の事象については保護者への啓発等も続けていく必要がある。児童が将来の夢や目標について意識したり考えたり、自己肯定感を向上させていくような取組を充実させていきたい。 ○健康・体づくりでは、運動習慣については、担任の取組や児童の委員会活動での企画等で外で遊ぶ児童が前年度と比べ増加したが、真夏の外での活動は熱中症対策等「児童の健康に気を遣うことが多かった。これからの時代は、夏場にも安心して運動ができる環境の整備(体育館の冷房完備等)が求められると考える。食育についても、授業や給食委員会の取組等で食事に関する関心は高まっている。また、安全についても職員相互における事故についての事業の共有をもとに機会あることに指導を続けることで大きな事故は起きなかった。 ○業務改善・教職員の働き方改革の推進については、会議等の回数や時間の削減、資料のデジタル化、余剰時間数の見直しと校時の変更等で職員個々の業務時間確保を進めることができた。しかし、人員不足等の問題もあり前年度よりも時間外在校等時間の削減はできなかった。子ども達との時間への余裕を持てるように、教職員の働き甲斐の充実につなげるためにも更に工夫や働きかけが必要であると考え。 ○特別支援教育の充実については、授業参観や授業研究会、研修会を通して、全職員の専門性を高めることができた。また、よりよい支援・指導のために保護者や関係機関との話し合いを行い情報の共有を図ってきた。 ○小中一貫教育の充実については、授業公開を通して教科「日本語」のよさを伝えることで保護者や地域の方々の関心が高まっていると考える。教職員の連携を図って小中一貫教育の推進も行っているが、具体的取組やそのよさ、意義等をうまく伝えられるようにしたい。
--------------------	--